

(株)雪国まいたけ

本社所在地	新潟県南魚沼市余川89
創業	1983年7月
売上高	310億1600万円
会社URL	https://www.maitake.co.jp/
環境保全関連URL	会社HP ~サステナビリティ~ https://www.maitake.co.jp/sustainability/ 会社HP ~ 2024年3月期第1四半期 決算説明資料~ https://ssl4.eir-parts.net/doc/1375/tdnet/2326303/00.pdf

持続的成長に向けた環境方針・目標

■ サステナビリティ基本方針

自然の恵みを活かし育てる企業である私たちは、
ステークホルダーの皆様とともに、
持続的な成長と実り豊かな自然との共生をめざして、
自然と人と社会の豊かさを追求していきます。

自然の豊かさに貢献する

環境に配慮した循環型のビジネスモデルを進化させ、地域の豊かな自然環境を守り、地球環境のサステナビリティに貢献していきます。

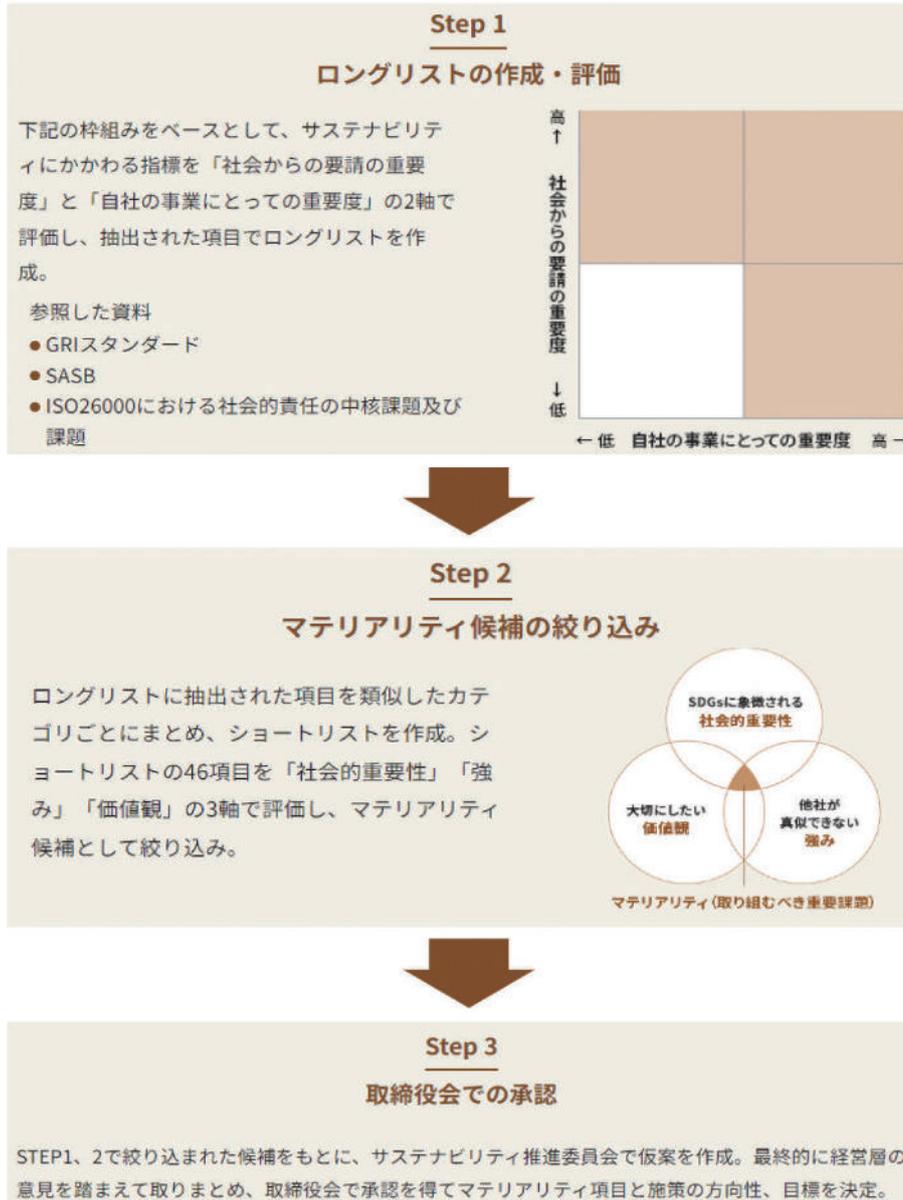
人々の健康に貢献する

安全・安心で高品質な商品の提供を通じて、人々の幸せと豊かな生活を支える健康の維持・向上に貢献していきます。

社会の発展に貢献する

企業価値の持続的な向上に努め、生み出された経済価値や社会価値をステークホルダーの皆様と分かち合いながら、潤いある豊かな社会の実現に貢献していきます。

■ マテリアリティ特定プロセス



■ マテリアリティ

 環境	持続可能な原材料等調達と水資源の活用 ▾ 気候変動への対応 ▾
 社会	安全・安心・高品質なきこの提供を通じた健康的な社会の実現 ▾ 地域社会との共生 ▾ きこのを起点とした新たな価値創出 ▾ 人的資本への投資と人権の尊重 ▾
 ガバナンス	公正・透明・健全な事業活動 ▾

■ サステナビリティ推進委員会を設置

当社は、2021年12月21日開催の取締役会において、サステナビリティへの対応を経営上の重要な課題であると捉え、当社グループにおけるサステナビリティの方針、グループ全体の持続的な成長及び社会課題の解決に向けた取り組みに関する重要な事項について審議し、取締役会に報告や提言を行う組織として、新たに「サステナビリティ推進委員会」を設置することを決議した。

1. 委員会設置の目的

当社グループは、主にきのご製品の製造販売を通じて、国民生活の充実と食文化の繁栄に貢献することを目指している。当社グループのあらゆるサステナビリティの取り組みに係る意思決定を行うことにより、グループ全体の持続的な成長及び社会課題の解決に資することを目的として、「サステナビリティ推進委員会」を設置した。

2. 委員会の役割

本委員会は、当社グループにおけるサステナビリティの方針、グループ全体の持続的な成長及び社会課題の解決に向けた取り組みに関する重要な事項について審議し、取締役会に報告や提言を行う。気候変動をはじめとする社会課題が事業に与えるリスク・機会の評価、サプライチェーンを含めた温室効果ガス排出量の削減等の目標設定及び施策の検討、進捗状況のモニタリングなども行う。

3. 委員会の構成

本委員会は、代表取締役社長を委員長とし、その他常勤取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び執行役員で構成され、原則半期に1回開催している。なお、同委員会には、常勤の監査等委員がオブザーバーとして出席するとともに、必要に応じて委員長の指名によりグループ会社社長等が参加している。また、取締役会では、サステナビリティ推進委員会から定期的に活動状況の報告を受け、気候変動をはじめとするサステナビリティへの対応の基本方針などの重要事項を審議している。

■ 原材料調達における取り組み

新たな原材料・代替食品開発・持続可能な食料安定供給

事例概要

■ 環境負荷の少ない食品の開発

・具体的な取り組み／きのこを主原料とした代替肉の開発に成功

当社は、中期経営計画に掲げているプロダクト・イノベーションの領域（新規事業）において、代替タンパクの研究を進めており、2023年6月20日のニュースリリースで、きのこを主原料とした代替肉の開発に成功したことを発表した。

現在の代替肉市場は大豆由来の成分を主原料としたものが主流となっているが、当社の開発した製品は、自然な美味しさを追求しつつ、原料であるきのこの低カロリー、低脂質、食物繊維といった特性を活かしたヘルシー志向の新しいプロダクトとなる。

また、厳格な品質管理のもと当社の国内生産センターで生産されたきのこを主原料としているので、食の安全面からも広く支持されるポテンシャルがあるものと考えている。

現在、順調に開発を進めており、なるべく早いタイミングでの上市を目指している。きのこメーカーならではの強みを生かし、今後もさまざまな種類の新規事業に取り組んでいく。

〔きのこ主原料の代替肉素材〕



〔きのこ主原料の代替肉素材を使用した調理例〕



原料の安定供給や安全面において、世界市場で付加価値・存在感を高める期待

“キノコ”を使った代替肉としては、英国クォーン社の「クォーン」が海外では広く流通している。「クォーン」社の代替肉は、大豆ベースの代替肉以上に本物に近い風味と食感を実現したものの、主原料が学術的にはキノコと異なる“菌類”であり、海外では安全性への不安が根強い。

一方で雪国まいたけの代替肉は、主原料として当社独自の厳格な品質管理で国内栽培した“キノコ”を使うため、原料の安定供給や安全性の面で強みがあり、海外市場を含め広い支持が期待できる。

「クォーン」は日本の消費者にも関心が高く国内でも一般販売が期待されていたが、国産でブランド認知度の高い雪国まいたけの市場参入は期待が大きい。

また、キノコ由来の代替肉は大豆由来の代替肉よりも製造から廃棄までのCO₂排出量が少ないとされ、サステナビリティの面でも注目されている。

〔雪国まいたけ〕日本国産きのこから作る代替肉



〔クォーン社〕菌類から作る代替肉



情報源

<< 会社HP >> NR ~ 新規事業（代替肉）の開発に関するお知らせ ~
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/1375/tdnet/2300682/00.pdf>

記事見出し『代替肉素材を開発 雪国まいたけ 年度内製品化へ』日本食料新聞 2021年2月12日

成果（見込含）

新たな原材料・代替食品開発・持続可能な食料安定供給

環境／生物多様性保全（国内）

取組背景（目標）

昨今では、森林の手入れが行き届かず荒廃が進み、水源涵養や山地災害の防止といった本来有する機能が果たされない森林が増えていることが危惧されている。

きのこの栽培に不可欠な原料であるおが粉（木屑）は、樹齢の高い伐採期を迎えた木や、健康な森の育成のために間伐された木など、森林整備計画により伐採されたものを主に利用している。そのため、持続的な森林資源の保全と活用は当社にとって重要な課題である。

当社は、自ら森林資源の保全に寄与することにより、事業の持続可能性をさらに高めるとともに、地域社会の課題解決にも貢献していきたいと考えている。

事例概要

■ 森林整備活動

・「雪国まいたけの森づくり」

当社は、2020年9月に南魚沼市ならびに南魚沼森林組合と森づくり活動に関する協定書を締結し、森林整備への取り組みを開始した。2020年から2025年までの5年間において、所有者である南魚沼市より大原運動公園周辺地域の森林6.3haの提供をうけ、健康な森づくりのための除伐や広葉樹の植栽等によって、人と森が共生できる森林公園の整備を行っている。

〔活動の内容〕

2020年 南魚沼市、南魚沼森林組合、新潟県南魚沼地域振興局と森づくりに関する協定を締結
「雪国まいたけの森」の開所

2021年 下草刈り、間伐による整備 広葉樹（サクラ）の植樹、小枝拾い

〔雪国まいたけの森〕



〔整備実施前と実施後〕



2022年 サクラ、ヤマモミジ植樹・ウッドチップ敷き、下草刈り

2023年 ヤマモミジ、アジサイの植樹・ウッドチップ敷き・下草刈り

※ 林野庁主催「森林×脱炭素チャレンジ2022」^(注1)において「グリーンパートナー 2022」に認定

〔サクラ、ヤマモミジ植樹〕



〔ウッドチップ敷き〕



〔グリーンパートナー 2022〕



森林整備活動による二酸化炭素吸収の他にも、使用済みの培地をボイラーの燃料に利用するなど、木材を無駄なく循環活用している活動が認められ「グリーンパートナー 2022」に認定された

(注1) 2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、森林による二酸化炭素吸収量の確保や強化に貢献する企業の取り組みを顕彰する制度

情報源

<< 会社HP >> ~ サステナビリティ／環境への取り組み／持続可能な原材料調達 ~
<https://www.maitake.co.jp/sustainability/environment/procurement/>

<< 会社HP >> ~ 2024年3月期 決算説明資料 ~ 26頁
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/1375/tdnet/2326303/00.pdf>

成果（見込含）

環境／生物多様性保全

資源循環

事例概要

■ 副産物の培地原料利用

温室効果ガス排出量の削減と資源の有効利用のため、きのこ栽培の培地原料に木材の建築用製材過程で発生するオガ粉や、小麦粉生産の際に発生するフスマといった副産物を利用している。副産物を使用することで18,243t-CO₂ ^(注1)分の排出削減に貢献している。

(注1) 基準年(2020年度)ベースで算定。ある製品をつくるプロセスで生まれる副産物を「リマインダーフロー」といい、温室効果ガスの算定に使用するIDEA(原単位データベース)においては算定の対象外となるため、温室効果ガスの排出削減につながる

情報源

<< 会社HP >> ~ サステナビリティ/環境への取り組み/気候変動への対応 ~
https://www.maitake.co.jp/sustainability/environment/climate_change/

成果(見込含)

資源循環

製造・廃棄における取り組み

環境／生物多様性保全・環境負荷低減①

取組背景（目標）

地球温暖化にともなう気候変動は、異常気象や自然災害を引き起こす可能性があり、国際社会が一体となって取り組むべき課題である。2015年に開催された第21回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）ではパリ協定が採択され、世界共通の長期目標として「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を追求する」ことが掲げられた。

一方で、気候変動は、原油価格の高騰や原材料価格の値上げなど、当社グループの事業に影響を及ぼす可能性も少ないとはいえない。気候変動への対応は、世界全体と、当社グループの持続可能性にとって重要な課題であると認識し、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいる。

事例概要

温室効果ガス排出量の削減

当社グループでは、気候変動のリスクを軽減するため、温室効果ガス排出量削減に向けた取り組みを推進している。2021年からは、温室効果ガス排出量（スコープ1・2・3を含む）の集計を開始し、2030年度までに温室効果ガス排出量を35%削減（2020年度比、排出量原単位・生産量ベース）する目標を設定した。さらに、2050年度には「温室効果ガス排出量ネット・ゼロ」を目標に、調達から生産、物流、流通に至るバリューチェーン全体に亘る削減に取り組んでいく。

〔目標達成へのロードマップ〕



事例概要

■ その他、環境負荷低減

・具体的な取り組み①／LED照明、地下水利用による省エネルギー化

きのご栽培センターでは、消費電力の少ないLED照明の使用や、栽培室内の温湿度のコントロールに雪国の豊富な地下水を利活用することで、栽培時の省エネルギー化に努めている。

・具体的な取り組み②／バイオマスエネルギーの活用

栽培に使用した後のオガ粉をバイオマスボイラーの燃料として使用。再生可能エネルギーとして有効活用することで、化石燃料の使用量を大幅に削減している。

・具体的な取り組み③／LNG（液化天然ガス）への転換

栽培センターで使用する燃料を、温室効果ガス排出量の少ないLNG（液化天然ガス）へ転換する取り組みを進めている。2021年1月に五泉バイオセンターに設置したLNGサテライト設備及びガスボイラーに続き、2022年10月には第3バイオセンターへの導入を実施した。これにより、第3バイオセンターでは生産量あたり11.0%（2023/3期、対前年比）の排出量を削減した。

・具体的な取り組み④／トレーの軽量化

当社ではトレーの軽量化を通じて廃棄物削減に貢献するため、トレー材質の見直しに取り組んできた。2021年度には、「まいたけ食べきりパック」のトレーで約16%、「まいたけMパック」で約22%、「雪国ぶなしめじWパック」で約11%の軽量化を実現した。これにより、合計で約153.2トンのプラスチックを削減できた計算になる^{*}。また、2022年度には新たに「まいたけ極ハッピーパック」等のトレーの材質変更を実施し、1枚当たり約12%の軽量化を実現した。

※ 2022年度の調達量に対し、材質変更前後のトレー重量を比較。

情報源

<< 会社HP >> ～ サステナビリティ／環境への取り組み／気候変動への対応 ～
https://www.maitake.co.jp/sustainability/environment/climate_change/

<< 会社HP >> ～ 2024年3月期 決算説明資料 ～ 25頁
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/1375/tdnet/2326303/00.pdf>

<< 会社HP >> ～ 気候変動への対応（TCFD提言に沿った情報開示）～
<https://www.maitake.co.jp/sustainability/environment/tcdf/>

<< 会社HP >> ～ 廃棄物削減と環境汚染防止 ～
<https://www.maitake.co.jp/sustainability/environment/waste/>

成果（見込含）

環境／生物多様性保全・脱炭素

〔クリーンエネルギー転換によるGHG排出量削減〕

五泉BCにおける 生産量あたりの SCOPE1削減量 (22/3期・対前年比)	$\Delta 0.04 \text{ t-CO}_2/\text{t}$	材質・材厚変更による削減量 ^{※2} (22/3期・対前年比)	$\Delta 470.2 \text{ t-CO}_2$
--------------------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------------	-------------------------------

〔全体（Scope1-3）のGHG排出量削減（2022年実績）〕

	21/3期	22/3期	前年比
スコープ1～3 合計	174,727 t-CO ₂	170,816 t-CO ₂	$\Delta 2.2\%$

■ 物流における取り組み

環境／生物多様性保全・環境負荷低減

事例概要

■ 温室効果ガス排出量削減

・具体的な取り組み①／鉄道輸送へのモーダルシフト

2017年からクールコンテナを利用した鉄道輸送を実施している。これによりトラックによる輸送の場合と比べ、約8割のCO₂排出削減に貢献している。

・具体的な取り組み②／包括管理による配送トラック便数削減

2021年度より販売物流部を立ち上げ、生産・販売・在庫から物流までの包括的な管理・運営を行うことで、トラックの積載率を向上し、車輛台数の最適化を推進している。

情報源

<< 会社HP >> ～ サステナビリティ／環境への取り組み／気候変動への対応 ～
https://www.maitake.co.jp/sustainability/environment/climate_change/

<< 会社HP >> ～ サステナビリティ／環境への取り組み／原材料の持続可能な調達に関する取り組み ～
<https://www.maitake.co.jp/sustainability/environment/procurement/>

<< 会社HP >> ～ 2024年3月期 決算説明資料 ～ 25頁
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/1375/tdnet/2326303/00.pdf>